発行月：平成24年6月　家族新聞　第203号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事　高橋賢一
連絡先　市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL0561-51-2878

平成二十四年
六月一日（金）
午前十時
第一回水質調査。
矢田川（宮下橋）
晴27℃　水温26℃
水質COD5℃
透視度35cm
（前日夜少し雨が降ったので川の水が濁っていたため）
「調査票」を各自チェック。昨年よりは魚類が多く採集された。特にメダカが多くかかっていた。川もたしかにきれいになってきている。

「川」と「河」はどう違うて、「川」という字はその形から想像できるように両岸のあいだを水が流れるようすを示した象形文字（地雨などの自然の水が集まって地表のくぼみに沿って流れる水路の総称）「河」はかつては中国の黄河のことを指していたのだが後に大きな川全般を意味するようになった。

▶水質パックテストで色を判断している生徒達。

▲今年はよく採れた。

日本で一番大きな川はって、日本で一番長いのは信濃川。上流の長野県では千曲川と呼ばれ、新潟県に入って信濃川と名前が変わる。源流から河口まで全長3.67km。流域面積の広さは長さで2位の利根川（全長3.32km）約1万6.0年0km ヒトップ。

▼メダカ、フナ、ザリガニ、モロコ。

◀20名の名都校生徒、みんなフィルド好き。

▼調査記入する生徒。